

4 あいちの祭り

今のように楽しみの少なかった昔は、お祭りが1年でいちばん楽しい日だったそうです。そして、お祭りは、病気をしないようにとかお米がたくさんとれますようにといった、人々の願いや感謝の気持ちがこめられています。

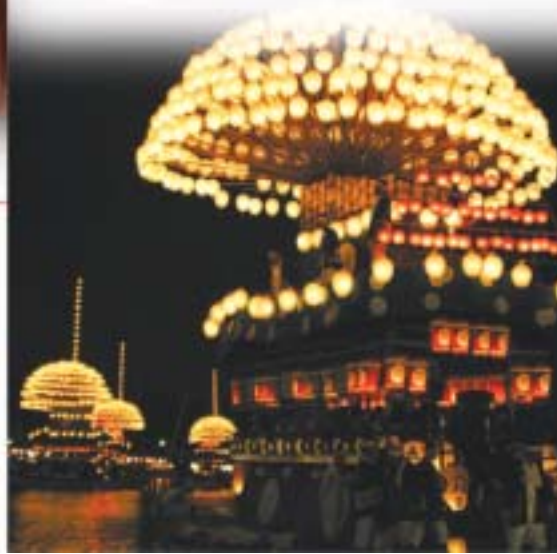
豊浜鯛祭り(南知多町、7月)▶

竹と木の骨組に布をまいてつくった長さ10m、重さ1トンをこえる5ひきの大きな鯛が、おおぜいのわか者たちにかつがれて町内をまわり、海に入る。



津島天王祭り(津島市、7月)▼

約400個の提灯をともした5そこの船が、夜、天王川を笛をかなでながらさかのぼる。織田信長や豊臣秀吉もこの祭りを見物したといわれている。



豊橋祇園祭り(豊橋市、7月)▲

手筒花火が生まれた地として知られる吉田神社で手筒花火300本、豊川では打上花火が夜空をいろどる。手筒花火は火薬をつめた竹筒をかつく。耳もとから火ばしらがたつて、とても熱そう!

大提灯祭り(一色町、8月)▶

日本一の大提灯がこの祭りのじまんで、大きいものになると高さが10mもある。毎年、海の魔物が田畑をあらしていたのを、大かがり火をたいて追いはらったというのが、この祭りの始まり。



はだか祭り(稲沢市、2月)◀

数千人はだか男が一人の「神男」にふれることでわざわいを落とそうと、はげしくもみ合う。いちばん寒いときでも、かけられた水が熱気でたちまち湯気となって立ちこめるさまは、ものすごい。



花祭り(東三河地方、11月~3月)▶

満天の星空のもと、夜どおしたくさんの舞がおこなわれる。子どもによる舞を「花の舞」という。いちばんのみどころは「鬼の舞」。「テーホへ、テーホへ」というかけ声とともに、見物客もいっしょになっておどる。



花祭りの地元の人の話

花祭りに出るのを毎年楽しみにしています。舞があるからふるさとに帰れますし、子どもの顔もおぼえられます。700年もつづく歴史ある文化を親から子どもへしっかりと伝えていきたいですね。

祭りのことなら、「あいち音の探偵団」でしようかしているから調べてみよう。
<http://www.pref.aichi.jp/koho/feeling/>